

安全データシート

1. 製品及び会社情報

製品名 : シアノン TG
会社名 : 高圧ガス工業株式会社
住所 : 千葉県佐倉市石川 620-1
担当部門 : 品質保証部 品質保証課
電話番号 : 043-485-2241
FAX 番号 : 043-485-4798
緊急連絡先 : 043-485-2231
用途 : 瞬間接着剤

2. 危険有害性の要約

GHS 分類
物理化学的危険性 : 引火性液体 区分4
健康に対する有害性 : 眼に対する重篤な損傷性・眼刺激性 区分2
: 特定標的臓器（単回暴露） 区分3（気道刺激性）

ラベル要素

絵表示又はシンボル :



注意喚起語 : 警告

危険有害性情報 : H227 : 可燃性液体
H319 : 強い眼刺激
H335 : 呼吸器への刺激のおそれ

安全対策 : P210 : 熱、高温のもの、火花、裸火および他の着火源から遠ざけること。禁煙。
P261 : ミスト/蒸気の吸引を避けること。
P264 : 取扱い後は水/石鹼水で手をよく洗うこと。
P271 : 屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。
P272 : 汚染された作業着は作業場から出さないこと。
P280 : 保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。

応急措置 : P370+P378 : 火災の場合：消火のために粉末消火剤、炭酸ガス、泡消火剤、乾燥砂を使用すること。
P305+P351+P338 : 眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
P337+P313 : 眼の刺激が続く場合：医師の診察/手当てを受けること。
P304+P340 : 吸引した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
P312 : 気分が悪い時は医師に連絡すること。

保管 : P403+P235 : 換気の良い場所で保管すること。涼しいところに置くこと。
P405 : 施錠して保管すること。

廃棄 : P501 : 内容物/容器を都道府県の規則に従って廃棄すること。

3. 組成、成分情報

単一製品・混合物の区別 : 混合物
一般名 : シアノアクリレート系接着剤

化学名	化学式	含有量(%)	官報公示整理番号 (化審法 No.)	CAS 番号
2-シアノアクリル酸エチル	$\text{CH}_2=\text{C}(\text{CN})\text{COOC}_2\text{H}_5$	76~81	2-2789	7085-85-0
メタクリル酸メチル系重合体	非公開	12~17	既登録	既登録
フェームドシリカ	非公開	4~9	既登録	既登録

4. 応急措置

吸入した場合 : 空気の新鮮な場所に移し、速やかに医師の診断を受ける。
皮膚に付着した場合 : 無理にはがさず、お湯の中でゆっくりもみほぐしながらはがす。または、専用のはがし液やアセトンを使用する。
目に入った場合 : 清浄な水で繰り返し洗浄し、眼科医の手当を受ける。
目をこすったり、はがし液やアセトン等の溶剤は、絶対に使用しないこと。
飲み込んだ場合 : 直ちに医師の手当を受ける。

5. 火災時の措置

消火剤 : 粉末消火剤、炭酸ガス
特定の消火方法 : 燃焼の際は、火元への燃焼源を断ち、消火剤を使用して消火する。
延焼の恐れのないよう水スプレーで周辺を冷却する。
消火作業は風上から行う。
消火を行う者の保護 : 消火作業の際は適切な保護具(送気マスク、自給式呼吸器等)を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項 : 作業の際には保護マスク、保護手袋、保護眼鏡などの保護具を着用し、蒸気の吸入や皮膚への接触を防止する。
環境に対する注意事項 : 公共水域への排出、または地下浸透を防止し、環境への影響をおこさない注意する。
除去方法 : 漏出源を取り除き漏れを止める。漏出した接着剤は保護手袋(ポリエチレン製)を着用して布などで少量ずつ拭き取る。布などに多量の接着剤がつくと急速に重合して発熱することがあるので注意する。
二次災害の防止策 : 付近の着火源となるものを速やかに取り除く。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い
技術的対策 : 適切な保護具(暴露防止及び保護措置の項を参照)を着用すること。
換気設備を設けること。
着火源の周辺での使用を避けること。
注意事項 : 皮膚を瞬間かつ強力に接着するため、使用に際しては十分注意すること。
取扱い場所周辺は蒸気が滞留しないよう換気に配慮し、火気厳禁とする。
ミスト、蒸気の吸入を避けること。
安全取扱い注意事項 : 取扱い後は手、顔等を良く洗い、うがいをする。
保管
技術的対策 : 容器を密閉して保管する。火気厳禁とする。
混触禁止物質 : 水、アミン等の塩基性物質との接触を避けること。
適切な保管条件 : 直射日光を避け、湿気の少ない5℃から23℃の屋内で保管すること。
安全な容器包装材料 : 当該物質に用いる専用のポリ容器以外の使用を避けること。

8. 曝露防止及び保護措置

曝露限界値 : 2-シアノアクリル酸エチル 0.2ppm ACGIH TLV-TWA (2005年版)
設備対策 : 室内で取扱う場合は、局所排気装置又は全体換気装置を設置することが望ましい。
または、蒸気が滞留しないように十分な措置を施すこと。
保護具

呼吸器の保護具	:	簡易マスク。
手の保護具	:	保護手袋(ポリエチレン製)。
目の保護具	:	保護眼鏡。
皮膚及び身体の保護具	:	長袖、長ズボンの作業服、保護用前掛け、保護帽、保護靴。
衛生対策	:	保護具は保管場所を定めて保管し、清潔なものを使用する。 取扱い場所の近くに手洗い、洗眼、うがい等の設備を設け、その位置を明示する。

9. 物理的及び化学的性質

物理的状态：液体		
色	:	無色～淡黄色
臭い	:	特有の刺激臭
融点	:	<0℃
沸点又は初留点 及び沸騰範囲	:	185℃
可燃性	:	あり
引火点	:	80℃
自然発火点	:	490℃
分解温度	:	データなし
pH	:	データなし
動粘粘性率	:	データなし
溶解度	:	水に不溶
オクタノール／水分配係数	:	データなし
蒸気圧	:	1Pa(25℃)
密度及び/又は相対密度	:	0.9～1.1g/cm ³ (23℃)
相対ガス密度	:	データなし
粒子特性	:	データなし

10. 安定性及び反応性

安定性	:	一般的な温度、気圧下においては安定である。
特定条件下で生じる危険な反応	:	水やアミン等の塩基性物質に接触すると急速に重合し、かなり発熱する。
避けるべき条件	:	着火源。水、塩基性物質との接触。
危険有害な分解生成物	:	燃焼等によってCO ₂ 、CO及びNO _x を発生する恐れがある。

11. 有害性情報

急性毒性	:	経口 [2-シアノアクリル酸エチル] LD ₅₀ >5,000mg/kg (ラット) 経皮 [2-シアノアクリル酸エチル] LD ₅₀ >2,000mg/kg (ウサギ) 吸入 [2-シアノアクリル酸エチル] データなし
皮膚腐食性・刺激性	:	分類できない
眼に対する重篤な損傷・刺激性	:	[2-シアノアクリル酸エチル] 強い眼刺激
呼吸器感作性	:	分類できない
皮膚感作性	:	分類できない
生殖細胞変異原性	:	データなし
発がん性	:	データなし
生殖毒性	:	データなし
特定標的臓器 (単回暴露)	:	[2-シアノアクリル酸エチル] 呼吸器への刺激のおそれ (気道刺激性)
特定標的臓器 (反復暴露)	:	データなし
誤えん有害性	:	データなし

12. 環境影響情報

水生環境急性有害性	:	[2-シアノアクリル酸エチル] データなし。
水生環境慢性有害性	:	[2-シアノアクリル酸エチル] データなし。

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物	:	廃棄する場合は、液を少量ずつ直射日光に当てるか、又は多量の水の中に徐々に滴下し、かき混ぜながら重合し、完全に固化したことを確認した後、関連法規並びに地方自治体の基準に従い廃棄をおこなうか、都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方自治体が行っている場合にはそこに委
-------	---	--

託して処理する。

汚染容器及び包装 : 容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準にしたがって適切な処分を行なう。

14.輸送上の注意

陸上輸送 : 消防法・労働安全衛生法等に基づき積載、輸送を行う。
海上輸送 : 船舶安全法・港則法等に基づき積載、輸送を行う。
航空輸送 : 航空法等に基づき積載、輸送を行う。
MARPOL 73/78 付属書II及び : 該当しない。
IBC コードによるばら積み輸送
される液体物質
輸送の特定の安全対策及び条件 : 運搬に際しては、容器に漏れのないことを確認し、転倒、落下、損傷がないように積み込み、荷崩れの防止を確実にを行う。

15.適用法令

消防法 : 危険物第4類第3石油類 非水溶性液体
毒物及び劇物取締法 : 該当しない。
労働安全衛生法 : 表示対象物質含有：2-シアノアクリル酸エチル
通知対象物質含有：2-シアノアクリル酸エチル
化学物質管理促進法(PRTR) : 改正政令(平成20年11月21日公布)に該当しない。
外国為替及び外国貿易管理法 : 輸出令別表第1の16項(キャッチオール規制)

16.その他の情報

参考文献 : 1) 化学物質等安全データシート (SDS) - 第1部内容及び項目の順序 JIS Z 7253
2) 日本化学工業協会編「製品安全データシートの作成指針」
3) 化学工業日報社「化審法化学物質」
4) 独立行政法人 製品評価技術基盤機構 化学物質総合検索システム
5) 中央労働災害防止協会 安全衛生情報センター GHS モデル MSDS 情報
6) RTECS (Registry of Toxic Effects of Chemical Substances) by NIOSH
7) ACGIH

記載内容は当社の最善の調査に基づいて作成しておりますが、記載のデータや評価に関しては必ずしも安全性を十分に保証するものではありません。すべての化学製品には未知の有害性が有り得る為、取扱いには細心の注意が必要です。ご使用者各位の責任において、個々の取扱い等の実態に応じて適切な使用条件を設定くださるようお願いいたします。